

〔茶道要録^上法〕釜之事同水遣具

一釜之蓋之事直蓋落込手蓋ト云アリ各紫銅也鈕ニハ透茄子檜實ト云アリ

〔茗談緒餘^下〕釜の蓋名の事

一中高きを盛蓋と云甲おち入たるをるめう蓋といふ亦蓋にふち有甲おち込たるを打込蓋といふ又甲すぐ成を一文字蓋といふ也

〔茶道筌蹄^三〕釜の蓋

モリ蓋は 阿彌陀堂 丸釜 薄モリは 尻張 スクヒ エメウ蓋 紹鷗小霞の類

一文字共蓋石目

〔槐記〕享保十四年正月七日御茶湯初メ參候^{二三}拙^〇山^略御釜^{圖略}此釜ニハ由來アル由仰ラル^近

カモノ上作モノ也コレナ宗和ガ所持ニテ此蓋ニテ釜レシイガイツレモ蓋ノ形ガ八角ナル付
ラテ釜ニモソノ意ナリテセラレシチ宗和ノ物ズキニテナシトシテモ八角トサシアウハ悪カ
ラントテ何トモシレヌ形ニ終ニナキ形ニセラレタリ環付モ形ノシレヌモノニセラレタルガ
蓋ハ殊ノ好也トイカイ秘藏ニテア川ニ八卦ノ蓋無禪ニヤラレテ無禪ヨリ御所ニ上ラレシラヌモ此
シト也

〔茶道筌蹄^三〕釜のツマミ

花の實 梅の花をニツ合せたる也 透茄子 山梔子 鑄ヌキツマミ^{俗に薬鍋} 鐵

椎ツマミ 鑲ツマミ^{俗にカキタテ} ツマミといふ

〔千家茶事不白齋聞書〕釜鑲付之事

一鬼面遠山栗形藤ノ實利休 兔宗拙 玄よこ耳是者鬼面より古きもの也 松かさばら貝な
ど蘆屋に多し かうとつて百侘のとつてなり牛の鼻たり也

〔茶道筌蹄^三〕鑲付